



築56年の空き家を貸切宿に再生、東京×北海道・美瑛の二拠点生活も本格始動

“暮らしに余白をもたらす”古民家宿「Ubaku Villa（宇莫別荘）」改修工事スタート



2025年3月のUbaku Villa

■ 美瑛の原風景に囲まれた、小さなヴィラの再生計画

北海道・美瑛町の丘の風景に溶け込むように佇む、築56年の古民家。

舞台は、旭川空港から車で約20分、美瑛町の中心部から約10分の場所にある、静かな集落「宇莫別（うばくべつ）」。

観光地の喧騒から少し離れ、人の手があまり加わっていない自然、風や小鳥の音が響く静けさ、どこか懐かしさを感じる風景——そんなこの土地の魅力を、そのまま宿の名「Ubaku Villa（宇莫別荘）」に込めました。

この古民家を一棟貸切宿「Ubaku Villa（ウバクヴィラ）」として再生するプロジェクトが、2025年6月に改修工事をスタートしました。

オフィシャルWEBサイト：<https://ubakuvilla.com/>



Ubaku Villaの立地

■ 「空き家再生」 × 「二拠点生活」 で挑む宿づくり

本プロジェクトを手がけるのは、東京のデベロッパーで不動産再生の仕事に携わるmashu。

都市での安定したキャリアを持ちながら、美瑛との二拠点生活を始め、自ら図面を引き、地元の工務店とともに空き家再生に挑んでいます。

改修工事では、古い木柱を残しながら、断熱性や水回りを現代仕様にアップデート。一部の工程——現地での草刈りや柱磨き、塗装など——は、自らの手も加えながら進めています。

月の半分は東京で働き、もう半分は美瑛で宿をつくる。

そんな「暮らしながら、場をつくる」というプロセスもまた、この宿の大切なストーリーです。



Ubaku Villaからの冬景色



美瑛の美しい丘

■ “暮らしに余白をもたらす”宿の構想

Ubaku Villaのコンセプトは、“暮らしに余白をもたらす”。

たとえば――

森を眺めながら味わう早朝の一杯のコーヒー。

焚き火の灯りの中で静かに本を読む夜のひととき。

そんな「日常の中の非日常」が、Ubaku Villaが提案する“余白”です。

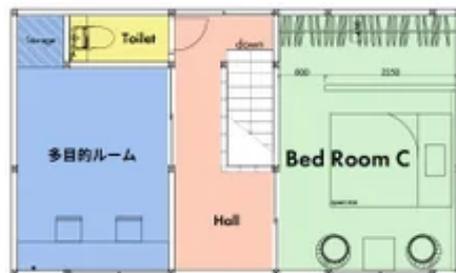
ここは「旅先」でありながら、「もうひとつの暮らしの入口」でもあります。

忙しい都市生活から少し離れ、自然に囲まれた場所で、自分と向き合い、丁寧に暮らす時間を過ごせる場所を目指しています。

小さな書斎スペースや焚き火台のある庭など、ただ泊まるだけでなく、「暮らすように滞在できる」環境づくりを進めています。



1階平面図 (約82㎡)



2階平面図 (約35㎡)



既存和室



既存リビング

■ 8月開業・9月クラウドファンディングも予定

宿のグランドオープンには2025年8月を予定しており、開業にあわせて9月にはクラウドファンディングも実施する予定です。

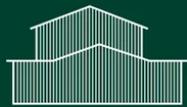
現地での工事の様子や宿の構想は、プロデューサーmashuのnoteでも随時発信中。

プロジェクトの背景や、都市と地方を往復する暮らしについても綴っています。

■ note記事 (プロジェクト裏話)

<https://note.com/loftershushi/>

■ Ubaku Villa (宇莫別荘) 施設概要



UBAKU VILLA
BIEI, HOKKAIDO

名称：Ubaku Villa

WEBサイト：<https://ubakuvilla.com/>

所在地：北海道上川郡美瑛町中宇莫別中部

運営形態：1日1組限定の無人貸切宿

開業予定：2025年8月

延べ面積：約117平米

定員数：1名～10名

部屋数：4室

敷地面積：約1,800平米

■取材・お問い合わせについて

Ubaku Villaでは、空き家再生・二拠点生活・地方創生などのテーマにご関心のあるメディア様からの取材をお待ちしています。DMでもかまいません。現地訪問・インタビューなど、柔軟に対応可能です。

担当：mashu（プロデューサー）

Instagram：[@ubakuvilla](https://www.instagram.com/ubakuvilla)

HP：<https://ubakuvilla.com/>

note：<https://note.com/loftershushi>

お問い合わせ先：info@ubakuvilla.com

Ubaku Villaのプレスリリース一覧

https://prt看imes.jp/main/html/searchrhp/company_id/163262